

# 健康・農業関連事業

Health & Crop Sciences

## 事業紹介

### 農業関連事業

化学農薬、バイオリショナル、肥料、コメなど

### 生活環境事業

家庭用殺虫剤、防疫用殺虫剤、熱帯感染症対策製品、動物用医薬品など

### 飼料添加物事業

メチオニン

### ファーマソリューション事業

低分子医薬品原薬、核酸医薬品原薬など



## 健康・農業関連事業部門の強み

自社開発の優れた化学農薬に加え、バイオリショナルなど高いシェアを持つユニークな農薬、生活環境薬や農業資材をグローバルに販売しています。当社の農業事業、生活環境事業の強みは、特長ある製品の品揃えとそれを生み出す研究開発力、グローバルな販売網です。また、メチオニン事業では、高い生産技術を活かし、製品を原料から一貫生産し安定供給しています。ファーマソリューション事業においては、当社の高い有機化学合成技術、品質保証体制を活用し、医薬品原体・中間体の供給、技術提供を行っています。

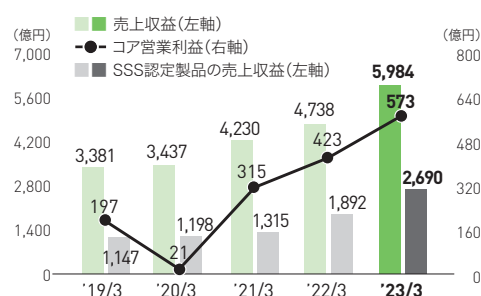
## 2022年度の取り組み

世界最大の大豆生産国であるブラジルにおいて、新規有効成分インディフリン®を含む大豆用殺菌剤エクスカリア マックス®の農業登録を取得し、本格的に販売を開始しました。世界最大の農薬市場である南米地域にて、今後さらに本剤の販売を拡大していきます。また、バイオリショナル事業においては、研究所の拡張や米国工場の増強に加えて、米国に新組織を設立して一部の顧客に対して直接販売を行うなど、製販研の各機能を強化しました。さらに、天然物由来の農業資材であるバイオスティミュラントを手掛ける米国のFBサイエンス社の買収をきっかけに、この分野にも本格的に参入しており、今後も事業拡大を進めていきます。

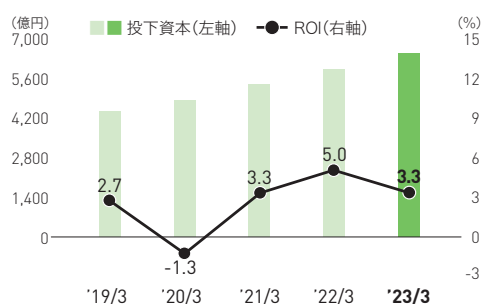
## 今後の取り組み

当部門の長期ビジョンの1つである、持続可能型製品事業の拡大を意識して、事業運営に取り組んでいきます。当社が強みを持つバイオリショナル・ボタニカル事業においては、引き続き、各地域での更なる事業拡大およびグローバルな製販研の機能強化に取り組めます。化学農薬の製品群については、インディフリン®等の大型新規剤の販売最大化に注力するとともに、より環境負荷低減効果を重視した製品の開発・上市に取り組んでいきます。また、南米での事業買収などにより拡大したサプライチェーンを強化するとともに、投資成果を着実に回収し、資本効率の向上を目指します。研究開発では、強みのある事業領域に重点的に資源を投入し、オープンイノベーションなども積極的に活用していきます。

## 売上収益・コア営業利益・SSS認定製品の売上収益



## 投下資本・ROI



## これまでの推移

今後の成長ドライバーとなる部門であり、積極投資を継続してきました。2022年度以降は、南米の買収効果が本格化する一方で、メチオニンの市況悪化が重石となっている状況です。

## 今後の対策・課題

グローバルフットプリント拡充(インド・南米)、新規農業開発等により、成長軌道に乗っています。バイオスティミュラント分野にも本格参入し、将来成長のピークも確保しつつ、PMIを確実に進めていきます。

## 持続可能型製品群の強化を意識した事業ポートフォリオ変革

天然物由来の成分を活用した微生物農薬、生活環境薬、植物成長調整剤、根圏微生物資材などのバイオリショナル製品に加えて、2023年に本格参入したバイオスティミュラント\*領域といったバイオリショナルやボタニカルなど、当社が強みを持つ領域の技術・製品群を武器に、競合他社との差別化を図ります。また、化学農薬についても、環境負荷低減への貢献をより強く意識して製品の開発・上市を推進します。

※バイオスティミュラント：  
作物や土壌が本来持つ力を引き出す効果を有する天然物由来の農業資材

### バイオリショナルの成長加速に向けた取り組み

バイオリショナルの成長加速に向けて、分野ごとに以下の通り取り組みを実施し、2030年度にはバイオリショナル・ボタニカル連売上高 1,200億円を目指します。

#### パイプライン開発・上市の加速

- R&D**
- 今中期経営計画で予定される40以上のプロジェクト推進
  - バイオリショナルリサーチセンター(BRC)の設備拡張

#### 販売機能強化

- 販売**
- 各地域でのサステナブル・ソリューション・ビジネス・ユニットの活用
  - 米国に新組織を設立し、直販を開始
  - ボタニカルの有機農業分野への拡販

#### 製品供給力強化

- 製造**
- 米国オセージ工場増強
  - ブラジル等地域拠点活用

#### 事業運営体制強化および事業拡大

- 事業**
- レポートライン簡素化、機動的な経営資源配分を実現
  - M&Aによる事業領域の拡大の追求

### 化学農薬による低環境負荷農業への貢献

#### ■不耕起栽培普及への貢献

不耕起栽培は、耕起作業を行わずに作物を栽培する農法であり、土壌保護や有機物の保全等環境面でのメリットが大きい点に加えて、地中からのCO<sub>2</sub>の放出抑制に貢献するなど、温室効果ガス(GHG)排出削減の観点でも注目されています。当社は作物の播種前に使用に適した除草剤を複数保有しており、これらの普及を通じて不耕起栽培の利便性を確保することで、本農法の普及に貢献します。

製品	取り組み・特長など	2024年度売上収益目標
フルミオキサジン	●残効性に優れており処理回数が削減できるほか、幅広い雑草に効果を示すため、不耕起栽培にも適している	700億円以上
ラビディシル®	●効果発現が速く、低薬量でも十分な効果を発揮する ●幅広い雑草に効果を示す等、不耕起栽培に適した性能を有す	-

#### ■種子処理剤の活用

種子処理とは、薬剤を種子に直接処理する施用方法のことです。種子に対してピンポイント処理することで、必要薬剤量を最小限に抑え、環境負荷の低減に寄与します。

### 研究開発の促進・効率化

重点領域を絞り込み、当社が強みを持つ領域へ資源を集中して投入するとともに、オープンイノベーションも積極的に活用していきます。

#### ■食糧分野での協働先

Ginkgo Bioworks(合成生物学)、Nuritas(家畜飼料添加物の開発)、Kansas State University, Danforth(土壌の健康/カーボンネガティブ技術)、Nufarm(混合剤共同開発)、Bayer(次世代雑草防除システムの開発)など

#### ■ヘルスケア分野での協働先

IVCC(マラリア等感染症対策用新製品・技術の開発・普及)など

### 実施済み投資案件の確実な回収

実施した投資の確実な回収に取り組み、資本コストを上回る投下資本利益率の早期達成を目指します。

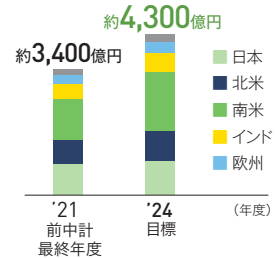
#### ■南米農業事業

2020年8月:買収したニューファーム社の南米子会社4社と当社の既存南米拠点の一体運営開始

2022年5月:ブラジルで新規有効成分「インディフリン®」を含む大豆用殺菌剤「エクスカリア マックス®」を上市



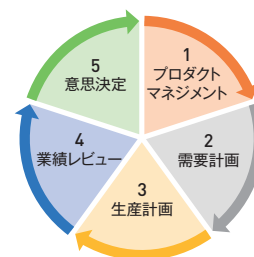
農業事業の売上収益目標  
(生活環境事業除く)



### グローバルサプライチェーン強化

拡張したグローバルフットプリントからの利益最大化を図るべく、サプライチェーンを強化し、安定した製品品質と安定供給を確実なものとしします。

#### IBP(Integrated Business Planning)フレームワークの横展開



- 生産・販売・購買・物流のサプライチェーン全体のリアルタイム情報共有・統合管理をベースに、財務情報に基づいたスピーディーな意思決定を実現
- 先行している南米に続きグローバルへ展開

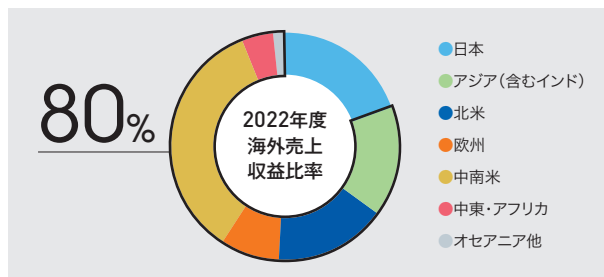
## グローバル展開の状況

### 顧客のニーズに即応した事業展開

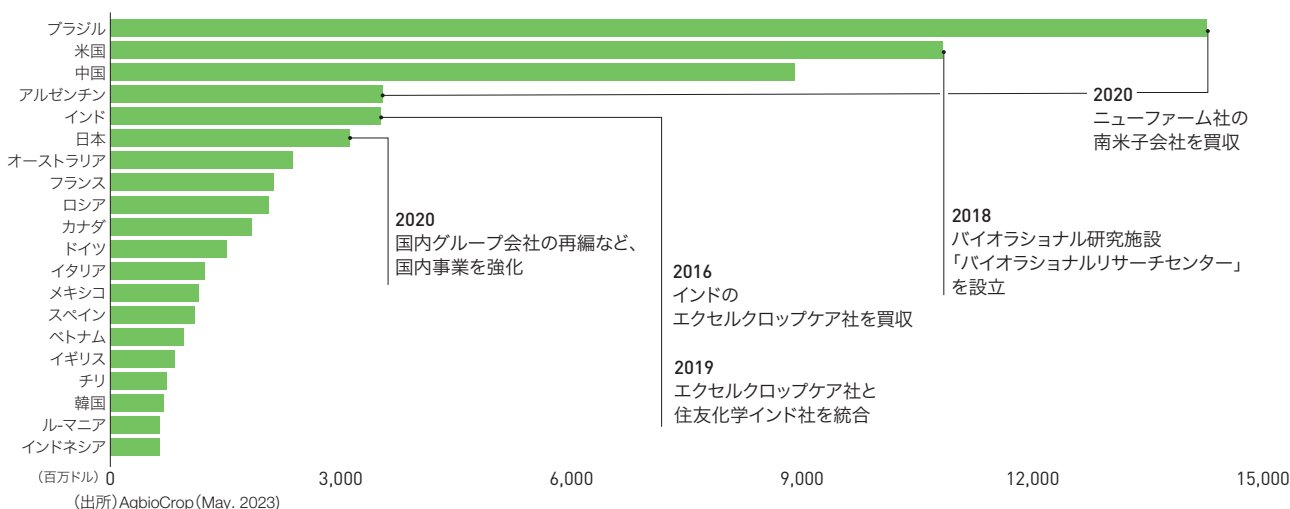
農薬事業のグローバル展開は、1960年代前半、北米に殺虫剤スミチオンの輸出を開始したことから始まりました。その後、1988年にベアレントU.S.A.社を設立して以降、世界各地に研究・生産・販売の拠点を構えています。地域によって気候や農作物はさまざまであるため、その地域に合った製品の開発や、各地のニーズへの迅速な対応を可能にする体制を構築しています。

これまでに、世界の主要農薬市場である欧米やアジア、南米などにおいて拠点を拡充してきており、現在は特に世界農薬市場トップ6か国中、5か国における販売機能の確保・強化を推進しています。

地域別売上収益比率



各国農薬市場の規模(2022年)



## Q&A

### Q: 近年、海外の大手農薬メーカーの再編が進み、住友化学と大手メーカーとの農薬事業の規模の差が拡大していますが、今後どのように戦っていくのですか。

**A:** 2017年にはダウとデュポン、2018年にはバイエルとモンサントが合併し、巨大なプレーヤーが誕生しました。しかし、当社はそれに倣って他社と合併する考えは現時点ではありません。世界の競合メーカーに伍していくため、次の3つの戦略をとっています。

#### ■ 研究開発力で勝負

生物は、時間の経過とともに必ず農薬に対する抵抗性を発揮するようになります。このため、新規の農薬を絶えず開発していく必要があります。そのためには研究開発力が非常に重要です。当社の特許件数は、海外の大手農薬メーカーと比較しても決して見劣りしないものであり、当社はこの研究開発力に根差した農薬メーカーとして今後も戦っていく考えです。

→ P.53 Investors' Handbook 2023

#### ■ 充実したグローバルフットプリントで勝負

世界中のあらゆる地域へ製品を届ける大手と比較すると、数年前までの当社のグローバルフットプリントは十分とはいえませんでした。しかし、近年は、2016年にインドのエクセルクロップケア社を買収し、2019年に住友化学インド社と統合した他、2020年にニューファーム社の南米事業を買収するなど、グローバルフットプリントの強化のための取り組みを着実に進めています。また、開発した農薬は、自らのグローバルフットプリントを活用し販売するだけでなく、海外の大手農薬メーカーの防除体系に組み込んで販売してもらうことで、より広い地域へのアクセスを可能にしています。

#### ■ バイオラショナルと化学農薬の二刀流でリジェネラティブ農業の実現をリード

→ P.46 持続可能な農業の推進

## 価値創造モデル:海外農薬事業



## 付加価値を提供する仕組み

### 住友化学の競争優位性

世界の農薬市場には、欧米の大手メーカーから比較的規模の小さなメーカーまで、多数のメーカーが存在しています。農薬は地域や作物によりニーズが大きく異なります。当社は、化学農薬とバイオラショナルからなる製品ポートフォリオを活かして、世界の各市場でユニークなポジショニングを追求しています。基礎的探索研究から応用開発研究まで、長期的視野で新規ソリューション開発に取り組んでおり、これらを通じて得た独自の製品や技術が、当社の競争優位性の基盤となっています。



健康・農業関連事業研究所

### 競争優位を生む主要プロセス

新規ソリューション開発のために重要な基礎的探索研究では、新しい農薬の有効成分を探します。ここでは効果だけでなく、人や環境への安全性も評価します。グローバルな研究開発ネットワークを活用して、できるだけ早く新しいソリューションを開発できるよう取り組んでいます。また、応用開発研究では、既存の有効成分を活用した新しい農薬製剤や新たな農薬の使用方法を探索しています。



バイオラショナルの技術指導の様子

### 顧客価値提供

農家は、農薬を使用することで、農作物の品質および収量を向上させたいと考えています。また、農作業を効率化し、収益性を高めることも期待しています。それと同時に農薬が農薬の使用者や農産物の消費者の健康に害を及ぼすことのないように、安全・安心も追求しています。このため、当社は顧客のニーズに合った効果が高くユニークな製品を提供します。地域や作物ごとのニーズを捉えたソリューションをつくり出すことで、持続可能な新しい農業技術の構築に貢献します。

## 社会に提供する付加価値

### 食糧の生産性を向上させることで食糧の安定供給に貢献

海外農薬事業の製品の一つである植物成長調整剤は、果実や野菜の実の付きを良くする、大きくする、品質を良くするなどの効果があります。さらに、作物の開花期や熟期の調整が可能であるため、気候変動により低温化や乾燥化が進んだ地域での作物の栽培にも対応し、世界各地での食糧増産に貢献しています。世界的な人口増加と世界経済の発展に伴い、安全・安心な食糧の需要が高まっています。当社はユニークな資材をグローバルに提供することで食糧の生産性を向上させ、食糧の安定供給に貢献することを目指します。



→ P.46 持続可能な農業の推進